

はじめに

本手順書は「Linux用常駐型インベントリ収集エージェント（以下、Linuxエージェント）」を管理対象PCにセットアップする手順です。

1.動作環境

	項目	仕様	備考
1	OS	Red Hat Enterprise Linux 6、7、8 CentOS 6、7、8	各バージョンごとにインストーラ(rpmパッケージ)が異なります。
2	メモリー	512MB以上	
4	HDD	10MB以上の空き容量(本体プログラム、ログファイル用)	
5	ネットワーク通信	管理サーバとhttpまたはhttps通信が行える必要があります。	

2.用語の説明

	本手順書での用語	説明	備考
1	管理対象Linux	Linuxエージェントをインストールしインベントリ情報収集を行うLinuxマシン	
2	Linuxエージェント	自動でインベントリ収集を行う、管理対象PCにインストールする常駐型プログラム	
3	管理サーバ	Linuxエージェントが収集したインベントリ情報のアップロード先サーバ (LogVillageマネージャ)	

3.インストール環境の前提条件

	項目	説明	備考
1	コマンド①	<p>以下のコマンド実行が可能なこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ dmidecode ・ hostname ・ domainname ・ ls ・ getconf ・ lsblk ・ df ・ lspci ・ udevadm ・ ip ・ 右記の何れか（rpm、repoquery、dpkg-query） ・ cat ・ grep ・ egrep ・ type ・ echo ・ mkdir 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 左記コマンドは、インベントリー情報の収集時にエージェントが実行するコマンドとなります。 ・ 「dmidecode」 コマンドがインストールされていない場合、以下のファイルがあれば同コマンドは不要となります。 /sys/devices/virtual/dmi/id/sys_vendor /sys/devices/virtual/dmi/id/product_name /sys/devices/virtual/dmi/id/product_serial /sys/devices/virtual/dmi/id/product_uuid
2	コマンド②	yumコマンドが実行可能なこと	コマンドや依存パッケージの追加インストールが必要な場合にのみ必要となります。

4.インストールに必要な依存パッケージ

	区分	内容	備考
1	依存パッケージ	1) libboost 2) libboost_filesystem 3) libboost_regex 4) libpugixml 5) libcurl	RedHat、CentOS 全バージョン共通となります。
2	パッケージのインストール方法		
	Reh Hat 8、CentOS 8	<pre>sudo yum install boost-filessystem sudo yum install boost-regex sudo yum install libcurl sudo yum install https://dl.fedoraproject.org/pub/epel/epel-release-latest-8.noarch.rpm sudo yum install pugixml</pre>	・ boost-xxxのバージョンは1.66となります。
	Reh Hat 7、CentOS 7	<pre>sudo yum install boost-filessystem sudo yum install boost-regex sudo yum install libcurl sudo yum install https://dl.fedoraproject.org/pub/epel/epel-release-latest-7.noarch.rpm sudo yum install pugixml</pre>	・ boost-xxxのバージョンは1.53となります。
	Reh Hat 6、CentOS 6	<pre>sudo yum install boost-filessystem sudo yum install boost-regex sudo yum install libcurl sudo yum install https://archives.fedoraproject.org/pub/archive/epel/6/x86_64/epel-release-6-8.noarch.rpm sudo yum install pugixml</pre>	・ boost-xxxのバージョンは1.41となります。

5.Linuxエージェントのインストール手順

	区分	内容	備考
1	Linuxにログイン	sudo権限を持つアカウントでログイン	
2	インストールパッケージを配置	各対応OSバージョンのrpmパッケージを管理対象Linuxの任意の場所に配置 (RedHat 8、CentOS 8) lvinventory-rh8-1.2.0-1.x86_64.rpm (RedHat 7、CentOS 7) lvinventory-rh7-1.2.0-1.x86_64.rpm (RedHat 6、CentOS 6) lvinventory-rh6-1.2.0-1.x86_64.rpm	
3	インストール	以下のコマンドを実行 sudo rpm -ivh [各対応OSバージョンのrpmパッケージ名].rpm	
4	config設定	<div>以下を編集</div> <div>■ファイル名：/usr/local/share/lvinventory/config.ini</div> <div>■編集内容：</div> <div><Server>xxx.xxx.xxx.xxx</Server></div> <div>：管理サーバのIPアドレス</div> <div><Port>80</Port></div> <div>：通信ポート番号（http=80、https=443）</div> <div><SSL>0</SSL></div> <div>：SSL通信の利用（利用しない=0、利用する=1）</div> <div><Username></Username></div> <div>：LVアクセスアカウント名</div> <div><Password></Password></div> <div>：LVアクセスアカウントのパスワード</div>	複数台数にインストールする場合、設定済みconfig.iniを上書きコピーでも問題ございません。

5	定期実行設定	crontabを設定 ①以下のコマンドを実行 sudo crontab -e ②以下を追加（3時間ごとに実行の場合） 0 */3 * * * /usr/local/bin/lvinventory	
6	インベントリ取得確認	管理サーバにてインベントリ情報収集確認 ・（管理画面）資産管理→ハードウェア台帳画面にて、当該管理対象Linuxのインベントリ情報が表示されることを確認	

6.Linuxエージェントのアンインストール手順

	区分	内容	備考
1	アンインストール	以下のコマンドを実行 sudo rpm -ev lvinventory	
2	定期実行設定を削除	crontabから定期実行設定を削除 ①以下のコマンドを実行 sudo crontab -e ②以下の設定を削除 0 */3 * * * /usr/local/bin/lvinventory	
3	不要ファイルを削除	以下のディレクトリを削除 /var/tmp/lvinventory	

7.Linuxエージェントの強制実行手順

	区分	内容	備考
1	強制実行	以下のコマンドを実行 sudo /usr/local/bin/lvinventory	

8.Linuxエージェントの動作ログ

	区分	内容	備考
1	動作ログの出力場所	/var/tmp/lvinventory/log/	